北斎漫画　七編

214.

142

6.00
Hokusai

きのふは深川のほとり廣幡の八幡の宮居に詣て朝の神のさとが
まうでさせ給ふところなれはそこの川のいはゆる橋場の浅
茅が原にかくぎすきに等友だちはいひさらば窓の
すそのくも日を送りつる餘のふさぎしくすやどりてふ
木々の梢も青葉所せくしげりひのおとに空も出る緑の
なかなかに白き雲のやうくさかしくにむらがり出るかゝらくに
あやしき峯といひなすうたひとつれとなるにさみよひ
なつもさかど筑紫の山ところえ猿橋とそてふ田鶴乃諸聲
井もひかくは尾張なる櫻田なる一花筑波根乃雪は日金
浮の旭にのびやかそていのもいのちにしるき和とうき住の江

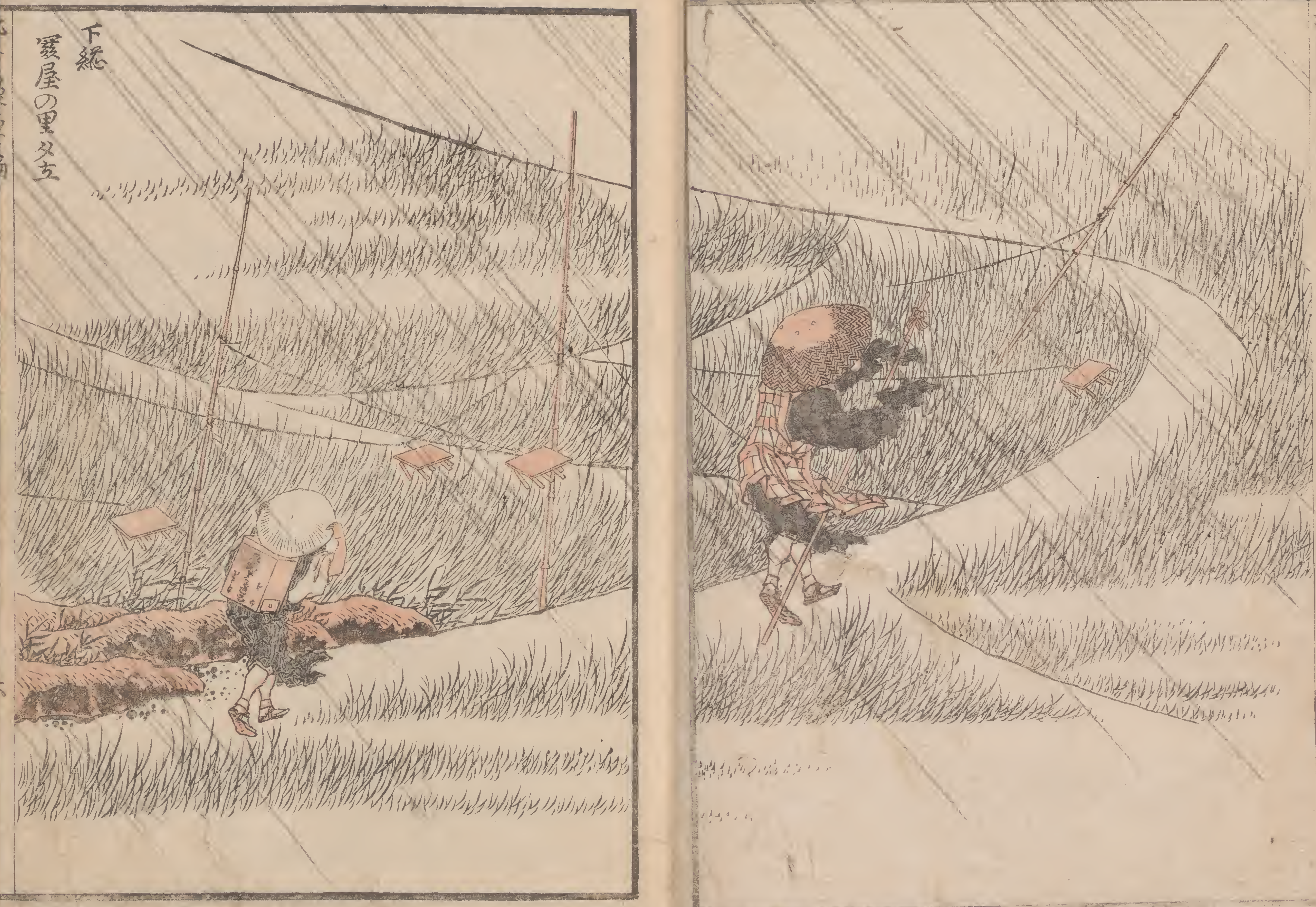
乃杢ち三保の浦なる霞にかくれて幾世経ぬらん尋ぬるかなし
しばらく久米路の橋に肝を失ひ秋田なる蕗に目を驚
かして天地のその極なく大きなることを志らぬ花は紅葉に
月は雪は春秋のながめもはいくたびか終まてたゞ
うして寝覚しともいふなるなきと小野の瀧のこがらし落
音耳にいまさむる志ろしりて結びし我家の窓のもと
まで枕に都しるき志ら雲ふかくなる理なる

式亭三馬

尾張
櫻田北雀

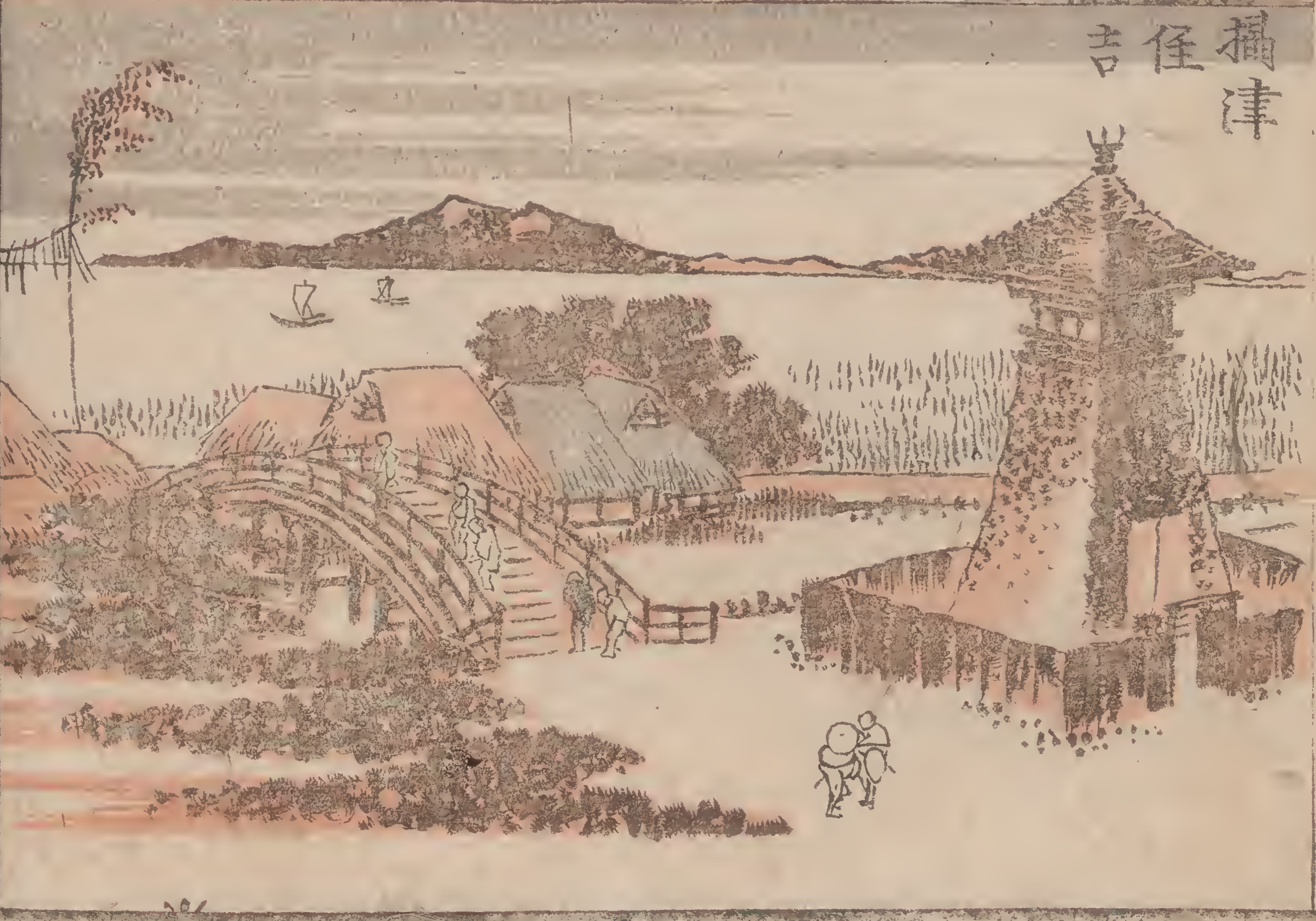
常陸 筑波の嶺雪

阿波の鳴戸



下総
霞屋の里夕立

甲斐の巴山



摂津住吉

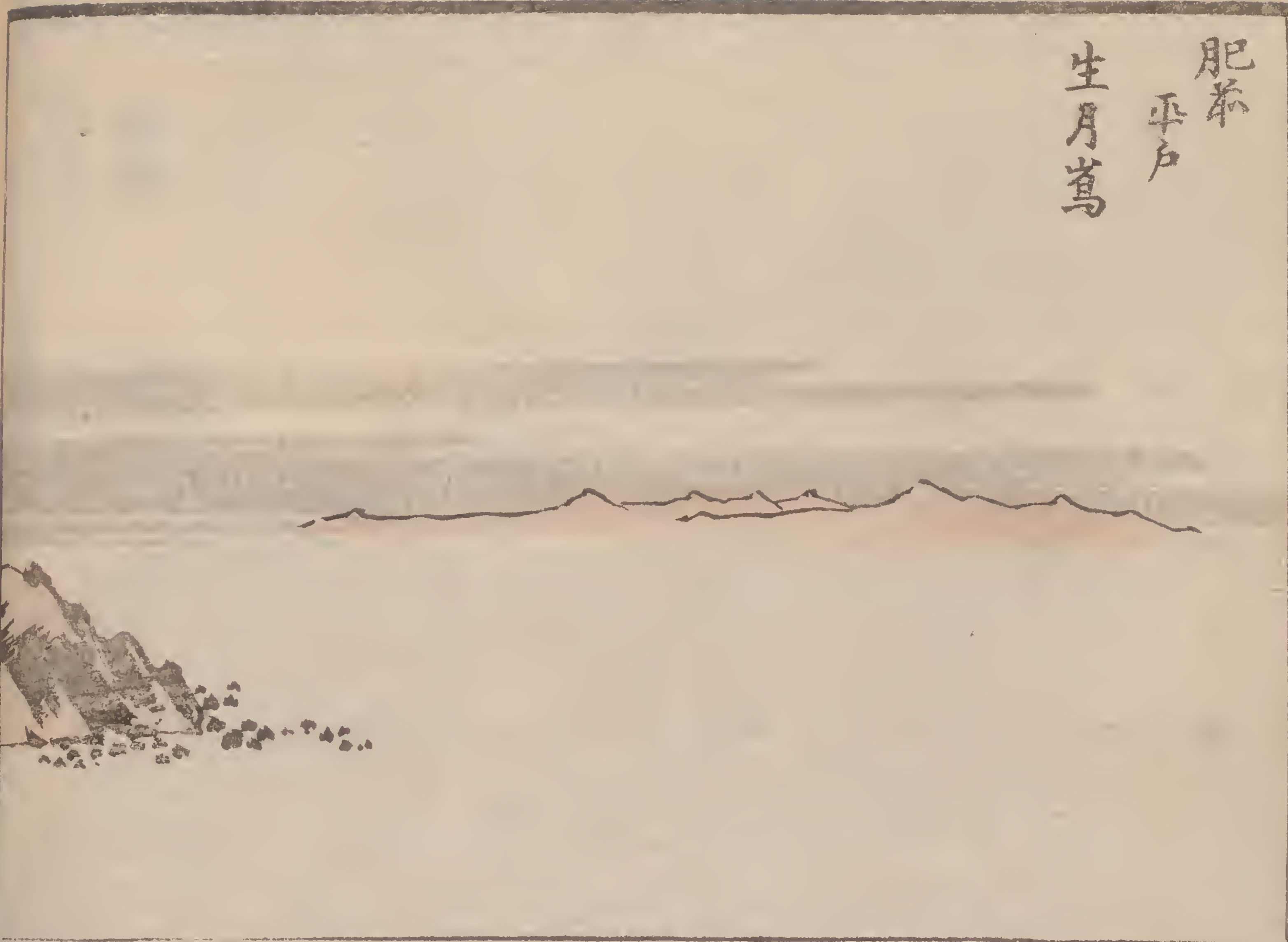
肥前稲佐弁天

越後八房の梅

肥後
五ケの庄

上総
八幡の銀杏

甲斐の
猿橋



肥前 平戸
生月嶌

陸奥
義経腰懸松

下総
行徳の芦

下総 隅田川の雁

上毛 妙義

相模 走り水

信濃 小野の瀑

駿河 三保の松

甲斐 鰍澤

武蔵 氷川

武蔵 侍乳山

伊豆 日金峠

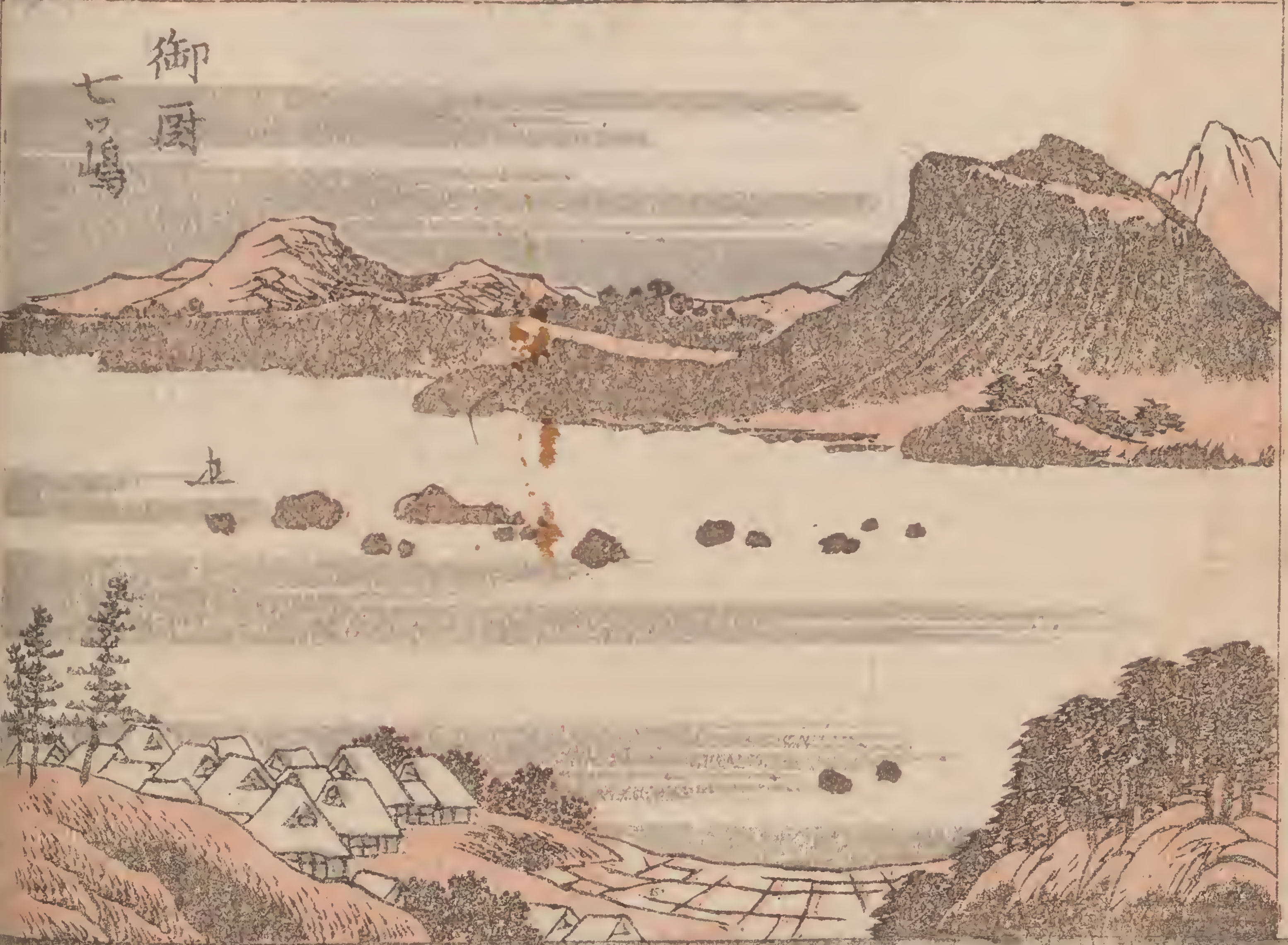
安房 鋸山

伊豆 尹呂尾

肥前
長崎ヨリ
五島ヲ見ル
勢州
石太神

備前
牛窓

壹岐
志作


御厨
七ッ嶋

肥前
与次兵衛灘

相模
三嵜

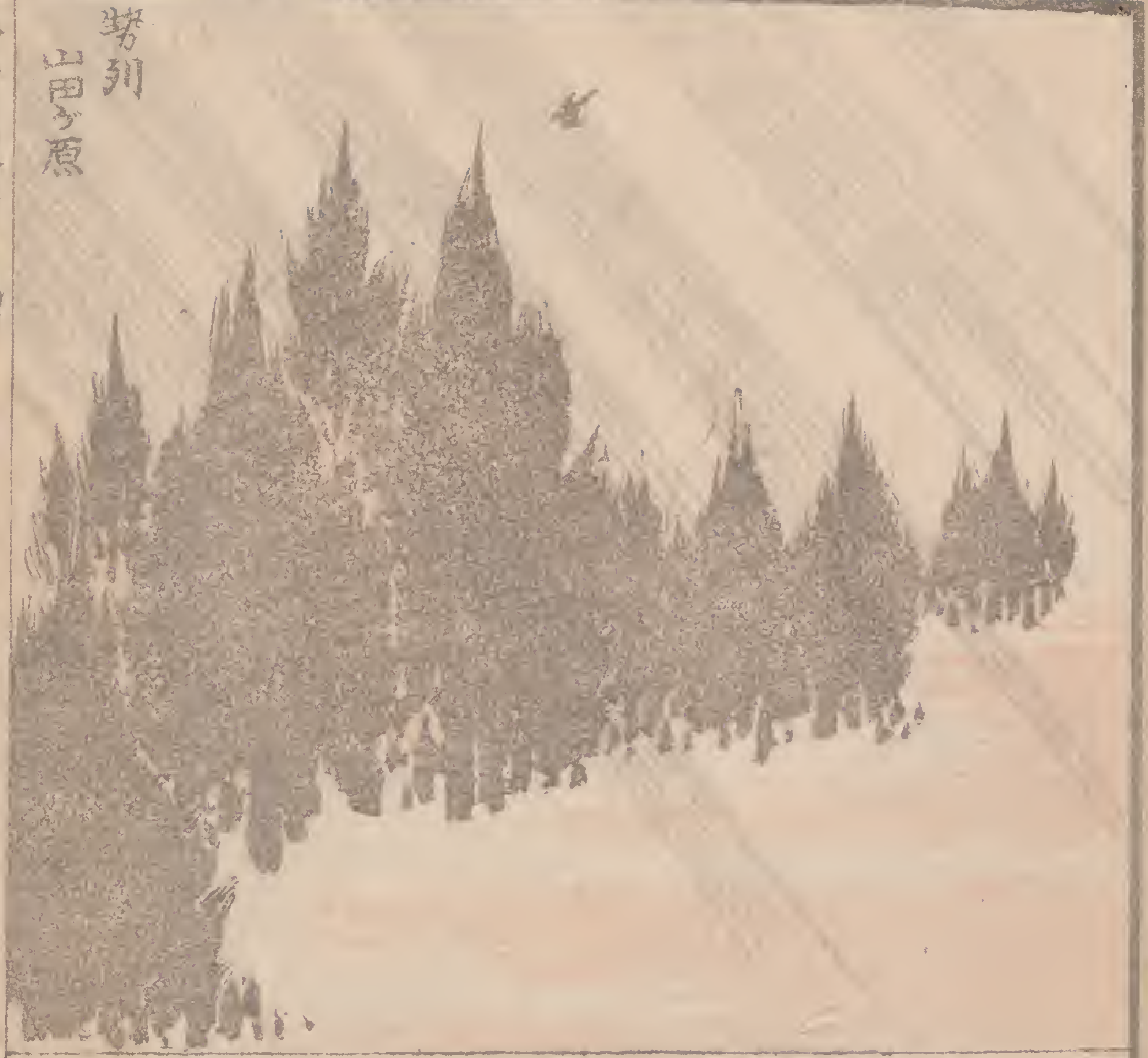
信濃
粂の岩橋

出羽
秋田の蕗

総州鈍子
胎内潜り

相州
野島の渡シ

下総
嶽の鼻


勢州
山田ヶ原

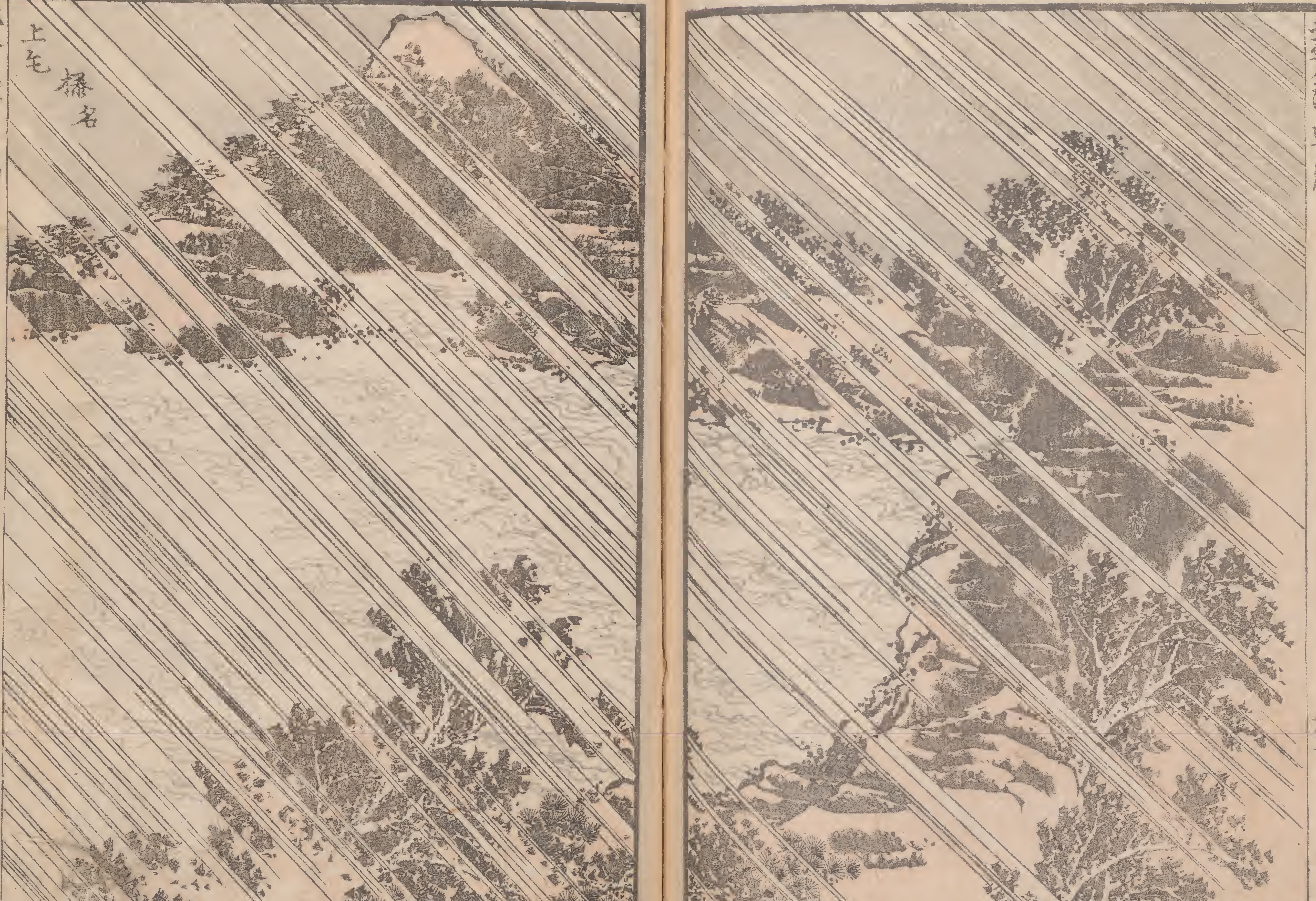
同
八幡の森

総州銚子
女夫が鼻

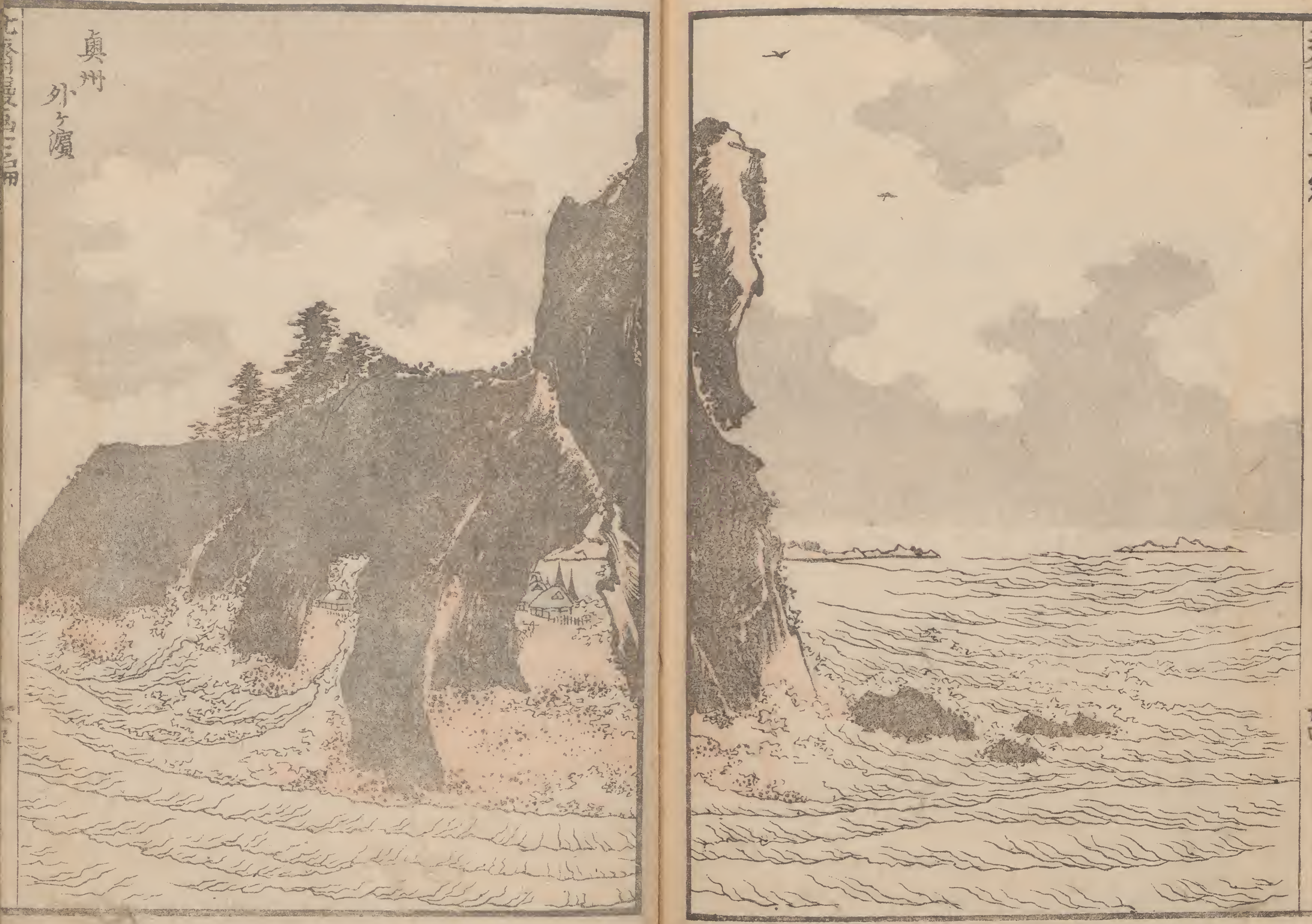
相模 浦賀

近江 湖水

甲州 矢立の松



北斎漫画七編


奥州
外ヶ濱

武州
霞ケ関

隠岐
焚火の社

葛飾北斎画

蔵版書目
葛飾北齋画
星閣

甲州
三嶌越

江都書林衆星閣蔵板目録

金匱要略輯義 法眼多紀先生著 全十冊
諸名家の説を委く論じ先生の考を加へ金匱の注釈ハ此書にて尽ると云ふべく医家必見べき書也

掌中詩学筌蹄 小林順信卿著 折本一冊
此書ハ初学の人詩を作るに安からしめん為に四季人事の詩題を分其に用ゆべき熟字数楚を多く集是に平仄を記しまた韻を出していかなる人も作らるべし

十七帖 晋王羲之書
王羲之の草書十七帖ハ第一とす書を学ぶにハちかごろよきてほんなり

狂詩砕錦 六樹園先生著 小本全二冊
狂詩を作るに用ゆべき語并熟語をあげ悉く平仄を附初心の人此書を見バ立所に狂詩を作らんと也

滑川談 大峰冢田先生著 全一冊

作文率
文用例證 北山先生著 全四冊
古今文章の要用を論じ書物の例をあぐ文章をまなぶものゝよろしくちかみちの書なり

孔子系譜全圖 露木直信撰 一枚
孔氏の始祖黄帝より聖人一世の徒弟嫡家歴代行実公襲封の事ハとしてたえざるよく文流乃孫賢達の人々の伝記を挙せり尤も孔氏一家のことを志るにたよりよき便なり

杏園詩集 蜀山先生著 近刻

同 文集 右同 同

入官第一義 大峰冢田先生著 全一冊

聖道辨物 右同 全二冊

蝋町平川貳丁目
書物問屋 角丸屋甚助

庭訓往来捷注　駒龍先生著　全一冊

此書は本文を大字にて書たまひ初学の手本となし……

古状揃捷注　近刻

庭訓注解のごとく童蒙の……

實語教捷注　同

同　證注　全一冊

新撰碁經大全　秋山仙朴著　全三冊

武家諸法度　全一冊

増補徒然草拾遺　大本　四冊　小本　四冊

関流算法點竄指南　梅田大原両先生閲　全三冊

増補塵劫記　全一冊

七夜物語　全一冊

桃林句選七巻集　中本　一冊

俳諧田ごと日　桃林先生著　小本一冊

俳諧季寄四季名寄　寸珍懐中　鐘閑齋老人著　全一冊

北齋漫画初編

同　二編

同　三編

同　四編

同　五編

同　六編

書札獨稽古　岩田夫山先生書

絵紙形詩歌　右同　墨帖　一本

ちらし書　右同　大本　一冊

寺沢風月往来　全一冊

女今川綾錦　全一冊

御家年中書状箱　文海堂書

遠州頌流生花記　一陽齋芳祇先生著　中本　二冊

同 七編
国々名勝の地風雨雪霄の景色をあつむ

同 八編
前篇にもれたるを補ひ且[illegible]の業をあつむ

同 九編
和漢の武者および貞婦烈女のたぐひを載す

同 十編
神仏並に貴僧高僧幻術并に風流の人物を紀す

三體画譜 戴斗画
真行草の筆意にしたがひ人物山川草木禽獣虫魚にいたるまで あまねく巻中に備へたり

戴斗画譜 全部十冊
先生七才より五十五四年画道に[illegible] 指学の筋骨を説いて画師の一助となるべきもの多くをせり

略画早指南初編 戴斗先生画
[illegible]

同 二編 早稽古 同
[illegible]

同 三編 早稽古 同
前篇にもれたるを補ひ[illegible]

同 四編 早引前編 同
[illegible]

同 五編 早引後編 同
[illegible]

商人鑑 戴斗画
市中商家四時のいとなみを[illegible]

吾妻百人女玉章 葛飾北斎画 女用文章入

万代百人操文庫 画人右同

南畝莠言 初編二冊出来
此書は杏花園先生数十年の座業の中より抄出して[illegible]和漢の書籍を[illegible]古今の[illegible]千古の考證となるべきもの[illegible]

千紅萬紫 初編出来 二編近刻
蜀山先生狂文狂詩狂歌をあつむ

和歌文語 六樹園著 前編出来 後編近刻
[illegible]

徒然草新注 同著 全三冊
[illegible]

光琳画譜 大本二冊

大成百人智恵鑑 北斎画 女今川入

通俗排悶録 六樹園譯 十冊
孝行 忠義 貞烈 友愛 琦行
明断 義侠 玩世 仙縁 霊異
此書は八清の[illegible]清朝までの[illegible]小児の[illegible]警戒のたすけとなるべき書なり

源注餘滴 六樹園著 全二十巻
源氏物語の[illegible]古注とも[illegible]補ひ各出所附注を湖月抄岷江入楚[illegible]古注の[illegible]正義をあきらむべきなり

雅言集覧　六樹園著　初編 二編 三冊出来 嗣出

此書ハいろは分のかなく部門をつけ古書のうち出古物語の何とも用数をあつめにありくその下に今の俗語をかんたく記しつる書えたとへば「めづらし」といふ詞ハ源氏帚木の巻十四丁ウラニあるのうちかさだめの博士にありてめづらしきねぐりうへ落くぞ巻の二十四丁のうらの雑俗とくせある女をうちとにえりかしとかくなたよぶたちぬめづらしきそく紫式部日記に云く後撰集に云く新撰字鏡に云くとあらしくその文をあげくお帚木の巻ハあるかくお名後さる故ちどうちぶうさすのあり落くぞあるハ典素めぐくさまえ日紀あるハ口めづらしとあまぶ口めづるをうどし拾いふよ後撰集あハうごきて俗語のいつもさまくえ和名抄に動痛とみるごとく俗語のつきくと記きていつもおいハいはれのにもめづらしくといふハいそぐにてうごきさうぐくとふいつる詞え古例の説にあきのくさてありと解したるハあやしき説えとかくさまにくわしくその詞どもを記せる書え諸書にこくてつどしくめのまへ人にあふくもの書の同俗依めき出つくるまぶ実に和文うきならふ人のためにハ捷径ともいふべき書なり

寐覚乃すさひ　六樹園漫筆　全五冊

狂文 阿保惚なまま　同者　塵外楼清澄校　全二冊

この書ハ人きくたあらくめでもむるまふきてたるうどたるふそはふり出るもしを吐くてびあうごともの中よりとりいでてにかく木にえうるく二ますきのあるとぶうのんよりくよにあぢはふ人ハいつりふうきこぞろをあるべきものなり

狂歌 葉津加蛯子　六樹園撰　全二冊

四季の旅おより恋雑にいつるまでとうしきふうそをのくえとひて小冬そかるぼうひにをあやまらぬぞ狂歌をよしんの本ともいふべき書なり

新撰 萬代狂歌集　撰者右同　全四冊

此集ハ和安永の比よりいままでいつるまでのたくる狂歌の作者たちハさうあり和歌の家の人ぐのたちむまにふよく出さきしをもとめくかりとよくあげてうえかのらそこぬめてあるありこれらねぐもくくうちめよりこえひのかれさまてそうしく與あるうさどもありきなその人ぐの家の集のうちよりぬき出たまぶさきく木にえりて出しくる人あやえる狂歌ハあるど今の世月次の集とくそしがきだかあき狂歌の集さる年くあまうこいぼみんまどさるたぐひふかハあるなどとえりたまう人

文化新撰狂歌百人一首　六樹園撰　大本全一冊

秀逸の狂歌に肖像をそへ此ハそへ奈良の時よりの戯笑歌中古の俳諧歌近代なる名ある人々の狂歌よくかしらがきにくハへてかうすとは古今の風体をさとりあらんと此書にもあるものあるべうかぞ

狂歌道中記

武者畫狂歌合　撰者右同

五十三次の名所かた古の勇士乃肖像に狂文のあつとぞをそへてあのよしあしをこころ

狂歌濱荻集　便々館湖鯉鮒大人撰　小本全三冊

四季恋雑の歌どもをあまくさぶらくあげてさうよしんよところてあんとあるべき狂歌教あまくさあり帯上ふところにして旅よりふんさとめ小冊とるつくひろめり

飛彈匠物語　六樹園飯盛作　葛飾北齋画　六冊

新編水滸画傳　曲亭馬琴譯　葛飾北齋画　十一冊

標注そのゝ雪　同作　同画　五冊

狂歌雪月花　六樹園撰

雪月花三題の秀歌を集め十二月の部を分つ

自讃狂歌集　撰者右同　諸名家画　後編近刻

狂歌新撰調度集　撰者右同

諸君子の恋歌をあつむ

飲食狂歌合

六樹園先生飲食の物の誹諧を狂文にて判したる狂歌合なり

狂歌五百題　金雞著　小本一冊

寒燈夜話 小栗外傳　小枝繁作　葛飾北齋画　前中後十六冊

春宵奇談 東嫩錦　右同　全五冊

春宵夜話 玉乃落穗　右同　前後編　十冊

假名手本後日文章　烏亭焉馬作　葛飾北齋画　五冊

忠孝潮来府志　馬琴作　北斎画　五冊

御成敗式目獨稽古　全一冊

画本葛飾文庫　前北斎戴斗老人筆

當時流行る西の竹人の画とハ異なり一流の風情を顧し草筆の際本を要とす

画本外傳　前北斎戴斗老人筆

鳳眼燕尾の筆意ふ あくまでしく 此のごとく画乃ニ いつもせきとすの書なり

和漢朗詠集獨稽古　全二冊

雑書年代記大成　一枚摺

江戸往来獨稽古

東都畫工　北斎改　葛飾戴斗

同　校合門人　魚屋北溪

斗圓樓北泉

尾陽名古屋校合門人　月光亭墨僊

東南西北雲

文化十四年
丑孟春

江戸日本橋四日市　竹川藤兵衛

同本石町十軒店　英屋平吉

名古屋本町七丁目　永樂屋東四郎

江戸麹町平川二丁目　角丸屋甚助